

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500422
法人名	医療法人 十全会
事業所名	グループホーム むつみの家
所在地	愛媛県新居浜市中萩町9番 52号
自己評価作成日	平成 22年 9月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびり、たのしく、いっしょにの理念を大切に、認知症になった人の生活の場として不安のない生活が送れるよう支援している。スタッフだけでなくご家族、地域住民の協力を得ながら地域の中で生活が送れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3ユニットは同敷地内にそれぞれ独立して建てられている。玄関に入るとユニット独自の工夫によって家庭的な雰囲気作りがされ、ほっとする空間となっている。管理者及び職員は「のんびり」「たのしく」「いっしょに」という理念に沿って利用者の日々の暮らしを支えている。利用者が自由に自分のペースで過ごされている様子からその事がうかがえる。地域との交流を大切にしており、自治会にも入会し、行事へ参加する等積極的に関わっている。ホームが発行している「むつみ新聞」も地域の人に読んでもらっている。また医療面においても24時間の連携が取れており利用者も家族も安心してきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームむつみの家

(ユニット名) 1 棟

記入者(管理者)

氏名 矢野 幸男

評価完了日 平成 22 年 9 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域密着型サービスの意義を踏まえた理念ではないが事業所としての基本理念を揚げ、ホーム内に掲示してある。職員は理念の共有ができています。</p> <p>(外部評価) 管理者及び職員は「のんびり」「たのしく」「いっしょに」を理念として共有し、利用者の日々の暮らしを支えている。利用者が地域の中で暮らす事を大切にしており、地域と積極的に交流を図ると共に協力を得て実践している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 校区や自治会の活動に参加しているが、日常的な交流にはいたっていない。徐々に交流の範囲が広まりつつある。</p> <p>(外部評価) ホームは自治会に入り、掃除等地域の一員としての役割を担っている。地域の行事（盆踊り、運動会、敬老会等）に参加したり、4つのボランティアグループに来てもらっている。また利用者が縫った雑巾を小・中学校に寄付している。園児との交流や散歩時に近所の人との会話もあり、地域との交流は深まっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議や避難訓練を通し理解して頂こうと取り組んでいるが、十分に活かされているかは解らない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 参加して頂ける方は限られているが、素直なご意見を 頂きながら、日々の介護・支援に活かせる様取り組ん でいる。	
			(外部評価) 自治会長、民生委員、地域包括支援センターの職員、 家族の参加がある。内容としてはホームの状況や活動 報告を行ったり、参加者による活発な意見交換が行わ れている。地域の方の要望で認知症についての学習会 も行っている。また運営推進会議を兼ねて家族や行 政、地域の方の参加を得て、避難・通報訓練を実施し ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 管理者の対応であるが、市担当者とはグループホーム 待機者情報など連絡を取り合い、情報の共有を図って いる。今後も継続して行きたい。	
			(外部評価) 運営推進会議が休日開催の時にも参加してもらって いる。グループホームの待機状況等連絡する等、普段か ら連携が取れている。また2か月に1回介護相談員の 受け入れも行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理解は出来ているが、スタッフの見守りが不十分に なってしまうと判断した場合は、安全確保のため玄関 を一時的に施錠などを行なうことがある。	
			(外部評価) ホームとして身体拘束はしない方針であり、管理者及 び職員は勉強会を行い理解を深め、取り組んでいる。 利用者の帰宅願望が強く外出する気配がみられたら、 職員が後ろから見守りながら付いて行くようにしてい る。玄関の鍵は昼間は施錠していない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 学ぶ機会があまりないが、スタッフ間で情報の共有を図り、身体的拘束は勿論、言葉による虐待にも十分に注意をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修に参加する機会が殆どないため、十分な理解ができていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者より入居時に契約に関する説明を行っている。また、支援・ケアに対する事業所の考え方を十分に説明、ご家族の不安の軽減に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 定期的に運営推進会議を開催、ご家族や地域住民の方にも参加して頂き、情報の提供とご意見が頂ける様にしている。また、面会時にも要望・ご意見を聴き反映できるように努めている。	
			(外部評価) 利用者及び家族に対して、入居時に要望や意見を遠慮せずと言って欲しいと説明している。運営推進会議や家族の面会時にも聞くよう心がけている。運営推進会議の案内は全員の家族に送っているが、参加者はあまり多くない。今年9月の敬老会は、県外在住の家族を含めて利用者のほぼ全員の家族が参加し盛大に開催された。	敬老会等で多くの家族が参加してもらえる時は家族と接するよい機会であり、その機会を活用して多くの家族の要望や意見を聞く等、一層の取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 部署会、勉強会といった会の開催、個人面接等で意見が提案できる場の提供を持っている。スタッフからでた意見を年度始めに事業計画として提案している。</p> <p>(外部評価) 管理者は会議等でも意見を聞いているが、普段でも職員は管理者に対して意見や要望を言える関係ができています。また、法人が職員の意見を吸い上げるためのアンケート調査を行い、法人の管理者も定期的にホームに来ていたため、職員は直接要望が言えるようになっており、その意見を運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職場環境、労働条件の整備改善に努めていることは感じられる。事務長、部長が定期的に巡回しており、直接意見が言えるようになっている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) スタッフからの希望があれば積極的に研修参加はできる。研修で得た知識・情報の伝達が不十分でスタッフ間の共有ができていない。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム連絡協議会の主催する相互研修への参加などで他施設のスタッフとのネットワークが広がっている。来年度以降も継続して行きたい。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入所前の状況によって違っているが、日々のケアの中で傾聴、見守りながら関係作りに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始において、フェイスシートなどに記入、聴き取りの中から利用者、家族の不安や要望を理解するようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族、本人様の話し合いにより希望・情報を得ながら日常生活全般において支援できるように努力している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個々の状態に合わせて良好な関係が築けるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 常にご家族と連絡を取り合い、家族のご意見を尊重できるように努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 途切れないようには考えているが、家族等の意向もあつたりと難しい面もある。面会に来た時などは心地よく感じて頂けるように努め、関係の継続に努めている。  (外部評価) 家族と協力して外泊や馴染みの場所に行く等の支援を行っている。また親戚や知り合いの方、地域の方の面会もある。長くホームで過ごされている利用者にとってはホームは我が家であり、その中で新たな馴染みの関係ができてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握し、トラブル時には早急な対応を心掛け、お互いが穏やかに過ごせるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所時には、情報の提供を行ったり、ご家族の相談に対しては随時受けている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプランの見直しの際に、本人やご家族の意向を、お聴きし、日々の関わりの中でも把握に努めている。まだまだ不十分と感じている。	
			(外部評価) 思いを自分で言える人もいるが、日常の会話から把握する事も多い。本人の得意なことを把握して支援している。また利用者一人ひとりに対して職員を受け持ち制にして、把握したことを全員で共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時フェイスシートを基に、お聴きし情報を得ているが、充分でないので日々の生活支援の中で、ご本人との会話の中から把握するようにしている。また、面会時にご家族から聴き取りを行なっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送りなどで話し合う機会を持ち、その都度対応できるようにしている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的に介護計画の見直しをしている。6ヶ月に1度はご家族やご本人を交えてカンファレンスをしている。ご家族やご本人の意見を取り入れたケアが実践できるように努めている。  (外部評価) 定期的に会議を開き、本人、家族、担当の職員の意見も採り入れて、本人に合った介護計画を作成している。介護計画に沿って週1回モニタリングを行い、分かり易く記録している。計画は6か月ごとに見直しているが、利用者の状況が変わればその都度話し合い、新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子や実践・結果・気づきが工夫され、個別記録に記入でき、毎日、週間予定にも具体的に記入でき職員間の共有ができています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご家族との話し合いを充分に行い、ご本人やご家族の状況、ニーズに対応できるよう柔軟な支援やサービスの提供ができるよう心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 入所者の方が安心して、楽しく生活できるよう、周辺施設（保育園）自治会、ボランティアなどの支援を頂きながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期的に母体病院の担当医の診察を受けている。個々 のかかりつけ医の受診も継続的に行い、その他につい ても必要に応じてご家族と相談実施している。  (外部評価) 入居時に母体病院や協力医療機関に変更する場合もある が、入居前のかかりつけ医との連携も支援してい る。受診の付き添いは基本的には家族にお願いしてい るが、緊急時はホームで対応している。医療との連携 が24時間365日可能で、定期的に訪問診療もあり 利用者は安心して過ごすことができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職場内の看護師と相談、状況に応じ担当医に相談、対 応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ご家族や主治医と相談、できる限り継続的関わりがで きるよう、情報の提供を、お互いに行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 担当医、管理者、リーダーがご家族と相談しながら進 めている。  (外部評価) 利用者が重度化した場合における対応に係る指針(看取 りに関する指針)を定め、医療機関との連携を図って おり、入居時に利用者及び家族に説明し同意を得てい る。ホームとして終末期に近い状態の利用者の介護も 経験している。	重度化した場合や終末期は医療機関で対応するという ホームの方針でも、利用者の状態は変化する事があ り、看取りを含めた職員の研修は継続して行うことを 望みたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修は受けているが、実践力に欠けている。今後も定期的な研修を継続して力をつけたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的な避難訓練、研修を実施。地域住民との連携強化を図り非常災害時に対応できるようにしたい。  (外部評価) 年2回夜間も想定して避難訓練を実施している。地域との交流が深く、訓練に地域や行政の方の協力が得られている。また訓練と同時に応急処置やAEDの講習も行われており、スプリンクラーも設置予定である。地域の消防団の方が見学に来られてアドバイス等ももらっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーの確保には充分注意している。  (外部評価) 居室は利用者のプライベートな場所なので必ず声かけを行ってから入るようにしている。利用者のペースを大切にし、自由に過ごしてもらっている。利用者への言葉遣いも気をつけて、一人ひとり尊重し、穏やかな声かけを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) できる限り、状況に合わせて、ご本人の意思・意向を尊重した支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご本人の希望に添った支援を心掛けているが、身体状況などによっては希望に添えないこともある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) できる限りの範囲ではあるが行なっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) できる事を大切に、お手伝いをして頂き、食事の時間を大切にしている	
			(外部評価) ユニット毎に献立を考え、買い物も一緒に行っている。できる方は食事の準備や後片付け等職員と一緒にしている。病気がある人に対しては、検査の結果を見ながらメニュー等の対応をしている。食事の時間はユニットによって違いはあるが、職員と共に会話を楽しみながら食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1人1人の状態に合わせて支援ができています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを実施、口腔内の清潔の保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 紙パンツを使用しているが、可能な限りトイレ誘導を行いトイレでの排泄支援を行っている。	
			(外部評価) 紙パンツを利用している人が多いが、トイレは自分でいける人が多い。ユニットによっては部屋にトイレがあり自由に行けるようになっている。利用者が利用した後の確認は必ず行うようにしている。夜間の場合は利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握し、定期的な見守りや、介助により個別に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然排便を心掛けている。困難な方には緩下剤を服用して頂くなどの対応をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日、入浴ができる状況にしている。1人1人の意向を大切にしている。	
			(外部評価) 入浴の時間は午後からであるが、利用者の希望に合わせた支援を行っている。希望すれば毎日入る事ができるようになっている。入浴が苦手な人には無理強いをすることなく、言葉かけ等工夫して清拭を行い着替え等も支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 状況に応じて声掛けを行い、休息を取って頂いたり、夜間は個々に任せているが覚醒時には声掛け見守りを行い、十分な休息が取れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬時にはスタッフ同士が確認を行い、誤薬することのないよう、特に注意している。医療関係者との連携を密にし情報の共有に努め、症状の変化に対応できるよう心掛けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご本人の負担、混乱や不安にならないよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご家族の協力を頂き、支援できるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) ユニットはそれぞれ独立した建物であり、ユニット毎に生活リズムが違う。食材の買い物や散歩、外食等は利用者に合わせて出かけている。地域の行事などは一緒に出かけたり、合同の行事等もありユニット間の交流も積極的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的にお金の管理は事務所で管理している。入所者の買い物などについては必要に応じ、ご家族の了解を得て行なっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人の意向に添って可能な限り行なって頂いている。家族からの電話にも出て頂き会話をして頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) できる限り、ご本人が過ごしやすくなるよう工夫をしている。	
			(外部評価) 居間はユニット毎に違っており、テレビ、ソファ等利用者が居心地よく過ごせるようそれぞれ工夫して配置している。トイレ等気になる臭いはなく、玄関や居間の壁の飾り等も季節が感じられるよう配慮されており、家庭的な雰囲気作りがされている。利用者は自分のペースで自由にお気に入りの場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングが狭くストレスを感じる場所が感じられる。個々の部屋を有効に活用し落ち着いて過ごせるように努めている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) それぞれの部屋は、使い慣れた物を使用し、ご本人、ご家族の思いの空間を作っている。	
			(外部評価) 利用者の希望で家庭より馴染みの物が持ち込まれている。壁には好みに合った飾り付けがされ、個性的な部屋となっている。居室はプライベートな場所であるので掃除等は自分でしてもらっているが、職員と一緒にする事もある。部屋はきちんと整理されており清潔感もあり、居心地のよい場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 個々の状況に合わせ補助具を使用して頂き、常に見守りサポートをしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500422
法人名	医療法人 十全会
事業所名	グループホーム むつみの家
所在地	愛媛県新居浜市中萩町9番 52号
自己評価作成日	平成 22年 9月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびり、たのしく、いっしょにの理念を大切に、認知症になった人の生活の場として不安のない生活が送れるよう支援している。スタッフだけでなくご家族、地域住民の協力を得ながら地域の中で生活が送れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3ユニットは同敷地内にそれぞれ独立して建てられている。玄関に入るとユニット独自の工夫によって家庭的な雰囲気作りがされ、ほっとする空間となっている。管理者及び職員は「のんびり」「たのしく」「いっしょに」という理念に沿って利用者の日々の暮らしを支えている。利用者が自由に自分のペースで過ごされている様子からその事がうかがえる。地域との交流を大切にしており、自治会にも入会し、行事へ参加する等積極的に関わっている。ホームが発行している「むつみ新聞」も地域の人に読んでもらっている。また医療面においても24時間の連携が取れており利用者も家族も安心してきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームむつみの家

(ユニット名) 2 棟

記入者(管理者)

氏名 矢野 幸男

評価完了日

平成 22 年 9 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を揚げ、ホーム内に掲示してある。職員は理念を念頭におき入所者のケアに反映できるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 管理者及び職員は「のんびり」「たのしく」「いっしょに」を理念として共有し、利用者日々の暮らしを支えている。利用者が地域の中で暮らす事を大切にしており、地域と積極的に交流を図ると共に協力を得て実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会の行事にも参加。事業所で行なう行事にも地域の方々の酸化を呼びかけ参加して頂いている。定期的に発行している「むつみ新聞」も配布。情報を提供し理解を頂けるようになってきている。	
			(外部評価) ホームは自治会に入り、掃除等地域の一員としての役割を担っている。地域の行事(盆踊り、運動会、敬老会等)に参加したり、4つのボランティアグループに来てもらっている。また利用者が縫った雑巾を小・中学校に寄付している。園児との交流や散歩時に近所の人との会話もあり、地域との交流は深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 定期的に運営推進会議を開催。内容によっては、メンバー以外の自治会の方々にも声掛けし参加して頂いている。認知症の方に対する理解や支援方法を学んで頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議では、事業所としての取り組みを報告。参加しているご家族、地域住民、行政の方からのご意見を伺いサービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 自治会長、民生委員、地域包括支援センターの職員、家族の参加がある。内容としてはホームの状況や活動報告を行ったり、参加者による活発な意見交換が行われている。地域の方の要望で認知症についての学習会も行っている。また運営推進会議を兼ねて家族や行政、地域の方の参加を得て、避難・通報訓練を実施している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 管理者の対応であるが、市担当者とは必要に応じて連絡を取り、情報の共有が図れるようにしている。	
			(外部評価) 運営推進会議が休日開催の時にも参加してもらっている。グループホームの待機状況等連絡する等、普段から連携が取れている。また2か月に1回介護相談員の受け入れも行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理解し、入所者主体のケアの取り組みを行なっている。定期的な学習で充実を図りたい。	
			(外部評価) ホームとして身体拘束はしない方針であり、管理者及び職員は勉強会を行い理解を深め、取り組んでいる。利用者の帰宅願望が強く外出する気配がみられたら、職員が後ろから見守りながら付いて行くようにしている。玄関の鍵は昼間は施錠していない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ間の情報の共有を図り、身体拘束は勿論、言葉による虐待にも充分注意して行きたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修に参加する機会が不足している。十分な理解ができていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者より入居時に契約に関する説明を行っている。また、支援・ケアに対する事業所の考え方を十分に説明、ご家族の不安の軽減を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 定期的に運営推進会議を開催、ご家族や地域住民の方にも参加して頂き、情報の提供とご意見を頂けるようにしている。	
			(外部評価) 利用者及び家族に対して、入居時に要望や意見を遠慮せずと言って欲しいと説明している。運営推進会議や家族の面会時にも聞くよう心がけている。運営推進会議の案内は全員の家族に送っているが、参加者はあまり多くない。今年9月の敬老会は、県外在住の家族を含めて利用者のほぼ全員の家族が参加し盛大に開催された。	敬老会等で多くの家族が参加してもらえる時は家族と接するよい機会であり、その機会を活用して多くの家族の要望や意見を聞く等、一層の取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) スタッフから出た意見を年度始めに事業計画として提出、運営に反映して頂いている。  (外部評価) 管理者は会議等でも意見を聞いているが、普段でも職員は管理者に対して意見や要望を言える関係ができています。また、法人が職員の意見を吸い上げるためのアンケート調査を行い、法人の管理者も定期的にホームに来ていたため、職員は直接要望が言えるようになっており、その意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 母体病院の事務長、看護部長が定期的に巡回して頂き、直接提言で来る環境になっている。管理者は定期的に行なわれている会議で意見を言っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) スタッフからの希望があれば積極的に研修参加はできる。研修で得た知識・情報の伝達が不十分でスタッフ間の共有ができていない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会の主催する相互研修への参加などで他施設のスタッフとのネットワークが広がっている。来年度以降も継続して行きたい。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前の状況によって違っているが、日々のケアの中で傾聴、見守りながら関係作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始において、フェイスシートなどに記入、聴き取りの中から利用者、家族の不安や要望を理解するようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族、本人様の話し合いにより希望・情報を得ながら日常生活全般において支援できるように努力している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご本人に、できる事をして頂きながら日々の暮らしをいっしょにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族への連絡を密にし、ご家族といっしょに、ご本人を支えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時は、その場で、気持のよい空間、時間を過ごして頂けるようにしている。  (外部評価) 家族と協力して外泊や馴染みの場所に行く等の支援を行っている。また親戚や知り合いの方、地域の方の面会もある。長くホームで過ごされている利用者にとってはホームは我が家であり、その中で新たな馴染みの関係ができてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握し、トラブル時には早急な対応を心掛け、お互いが穏やかに過ごせるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も、お会いした折など、ご挨拶を交わしたりする。個人情報など`の関係もあり配慮が必要。ご家族からの相談には随時対応している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプランの見直しの際に、本人やご家族の意向を、お聴きし、日々の関わりの中でも把握に努めている。まだまだ不十分と感じている。  (外部評価) 思いを自分で言える人もいるが、日常の会話から把握する事も多い。本人の得意なことを把握して支援している。また利用者一人ひとりに対して職員を受け持ち制にして、把握したことを全員で共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時フェイスシートを基に、お聴きし情報を得ているが、充分でないので日々の生活支援の中で、ご本人との会話の中から把握するようにしている。また、面会時にご家族から聴き取りを行なっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の過ごし方や心身の状態を把握し、ケア・支援に活かせるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人から希望を聴く事は難しいが、ケアプランの見直しの際に、ご家族の希望や意見を聴き、取り入れるようにしている。本人主体の介護・支援計画が作成できるように努めている。	
			(外部評価) 定期的な会議を開き、本人、家族、担当の職員の意見も採り入れて、本人に合った介護計画を作成している。介護計画に沿って週1回モニタリングを行い、分かり易く記録している。計画は6か月ごとに見直しているが、利用者の状況が変わればその都度話し合い、新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活の様子や会話の記録を個別記録に記入、毎日、週間予定にも具体的に記入し職員間の共有ができるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 受診の付き添いや本人の希望の外出など柔軟に対応を心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの訪問もあり、自治会の敬老会、盆踊り、住民運動会等に参加。いろいろな方と触れ合う機会を持っている。安全で豊かな暮らしを楽しむことができていると思う。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) ご本人やご家族の希望する医療機関を受診している。 ご家族が受診に同行できない時にはスタッフが同行し ている。</p> <p>(外部評価) 入居時に母体病院や協力医療機関に変更する場合もあるが、入居前のかかりつけ医との連携も支援してい る。受診の付き添いは基本的には家族にお願いしてい るが、緊急時はホームで対応している。医療との連携 が24時間365日可能で、定期的に訪問診療もあり 利用者は安心して過ごすことができている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 職場内の看護師と相談、状況に応じ担当医に相談、対 応している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) ご本人の身体状況に応じて、ご家族や主治医と相談、 入退院の支援を行っている。できる限り継続的関わり ができるよう、情報の提供を、お互いに行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入所時、また状態の変化に応じて、その都度ご家族に 対して事業所としての考えを説明しているが、ご家族 の思いとの差を感じている。</p> <p>(外部評価) 利用者が重度化した場合における対応に係る指針(看取 りに関する指針)を定め、医療機関との連携を図って おり、入居時に利用者及び家族に説明し同意を得てい る。ホームとして終末期に近い状態の利用者の介護も 経験している。</p>	<p>重度化した場合や終末期は医療機関で対応するという ホームの方針でも、利用者の状態は変化する事があ り、看取りを含めた職員の研修は継続して行うことを 望みたい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修は受けているが、実践力に欠けている。今後も定期的な研修を継続して力をつけたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的な避難訓練、研修を実施。地域住民との連携強化を図り非常災害時に対応できるようにしたい。設備の充実を図っている。  (外部評価) 年2回夜間も想定して避難訓練を実施している。地域との交流が深く、訓練に地域や行政の方の協力が得られている。また訓練と同時に応急処置やAEDの講習も行われており、スプリンクラーも設置予定である。地域の消防団の方が見学に来られてアドバイス等ももらっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入所者様の人格の尊重は、スタッフ一人一人が常に心掛けて支援している。  (外部評価) 居室は利用者のプライベートな場所なので必ず声かけを行ってから入るようにしている。利用者のペースを大切にし、自由に過ごしてもらっている。利用者への言葉遣いも気をつけて、一人ひとり尊重し、穏やかな声かけを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話の中で希望を聴き取れるようにしている。ご本人が選ぶ事のできる場面を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご本人のペースを大切にしている。時に業務を優先してしまうことがある	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 各自が使い慣れた化粧品を使用したり、ご本人の力量に合わせた身だしなみの支援を行っている。理・美容は近所の馴染みの店を利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備・片付けなど、する人、しない人と隔たりはあるが、ここの状況を見ながら継続して行っている。  (外部評価) ユニット毎に献立を考え、買い物も一緒に行っている。できる方は食事の準備や後片付け等職員と一緒にしている。病気がある人に対しては、検査の結果を見ながらメニュー等の対応をしている。食事の時間はユニットによって違いはあるが、職員と共に会話を楽しみながら食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量は、入所者個々によって差が見られる。個々の嗜好に合う物を提供しながら十分な栄養摂取、水分摂取ができるようにしたい。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 訪問歯科を導入している。指導を受けながら口腔内の清潔の保持が図れるよう支援したい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の力量、状況に合わせて紙パンツ、パットを使用している。適時トイレ誘導し可能な限りトイレでの排泄支援をしたい。	
			(外部評価) 紙パンツを利用している人が多いが、トイレは自分でいける人が多い。ユニットによっては部屋にトイレがあり自由に行けるようになっている。利用者が利用した後の確認は必ず行うようにしている。夜間の場合は利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握し、定期的な見守りや、介助により個別に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事に野菜を多く取り入れ、便秘の予防に努めている。また、日中の散歩等運動を取り入れたりしているが、必要に応じて緩下剤を服用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日、入浴ができる状況にしている。一人一人の意向を大切にしている。入浴を嫌がる入所者様には声掛けの工夫をして入浴を楽しめるように支援している。	
			(外部評価) 入浴の時間は午後からであるが、利用者の希望に合わせた支援を行っている。希望すれば毎日入浴ができるようになっている。入浴が苦手な人には無理強いをすることなく、言葉かけ等工夫して清拭を行い着替え等も支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 状況に応じて声掛けを行い、休息を取って頂いたり、夜間は個々に任せているが覚醒時には声掛け見守りを行い、十分な休息が取れるよう支援しているが苦慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬時にはスタッフ同士が確認を行い、誤薬することのないよう、特に注意している。医療関係者との連携を密にし情報の共有に努め、症状の変化に対応できるよう心掛けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご本人のできる事や興味を持てることを理解し場面に応じた支援をしている。食事作りの手伝い、洋裁、和裁など本人の負担にならないように取り組んでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物や散歩などご本人の希望に応じて支援できるようにし気分転換を図っている。	
			(外部評価) ユニットはそれぞれ独立した建物であり、ユニット毎に生活リズムが違う。食材の買い物や散歩、外食等は利用者に合わせて出かけている。地域の行事などは一緒に出かけたり、合同の行事等もありユニット間の交流も積極的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的にお金の管理は事務所で管理している。入所者の買い物などについては必要に応じ、ご家族の了解を得て行なっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人の意向に添って可能な限り行なって頂いている。家族からの電話にも出て頂き会話をして頂いている。現在は、家族了解のうえ携帯電話を持っている方も居られる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節折々の花を飾ったり心の落ち着く空間作りに努めている。	
			(外部評価) 居間はユニット毎に違っており、テレビ、ソファ等利用者が居心地よく過ごせるようそれぞれ工夫して配置している。トイレ等気になる臭いはなく、玄関や居間の壁の飾り等も季節が感じられるよう配慮されており、家庭的な雰囲気作りがされている。利用者は自分のペースで自由にお気に入りの場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 各自が落ち着く空間があり、それぞれが自分たちのペースで生活している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) それぞれの部屋は、使い慣れた物を使用し、ご本人ご家族の想いの空間を作って頂いている。	
			(外部評価) 利用者の希望で家庭より馴染みの物が持ち込まれている。壁には好みに合った飾り付けがされ、個性的な部屋となっている。居室はプライベートな場所であるので掃除等は自分でしてもらっているが、職員と一緒にする事もある。部屋はきちんと整理されており清潔感もあり、居心地のよい場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) もともと軽度の認知症高齢者を受け入れを考えて作られている。現在入所されている方の高齢化により身体機能の低下が見られる。ハード面の不備があるので安全に対する注意が必要になっている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500422
法人名	医療法人 十全会
事業所名	グループホーム むつみの家
所在地	愛媛県新居浜市中萩町9番 52号
自己評価作成日	平成 22年 9月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびり、たのしく、いっしょにの理念を大切に、認知症になった人の生活の場として不安のない生活が送れるよう支援している。スタッフだけでなくご家族、地域住民の協力を得ながら地域の中で生活が送れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3ユニットは同敷地内にそれぞれ独立して建てられている。玄関に入るとユニット独自の工夫によって家庭的な雰囲気作りがされ、ほっとする空間となっている。管理者及び職員は「のんびり」「たのしく」「いっしょに」という理念に沿って利用者の日々の暮らしを支えている。利用者が自由に自分のペースで過ごされている様子からその事がうかがえる。地域との交流を大切にしており、自治会にも入会し、行事へ参加する等積極的に関わっている。ホームが発行している「むつみ新聞」も地域の人に読んでもらっている。また医療面においても24時間の連携が取れており利用者も家族も安心してきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームむつみの家

(ユニット名) 3 棟

記入者(管理者)  
氏名 矢野 幸男

評価完了日 平成 22 年 9 月 10 日



(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を揚げ、ホーム内に掲示してある。職員は理念を念頭におき入所者のケアに反映できるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 管理者及び職員は「のんびり」「たのしく」「いっしょに」を理念として共有し、利用者日々の暮らしを支えている。利用者が地域の中で暮らす事を大切にしており、地域と積極的に交流を図ると共に協力を得て実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会の行事にも参加。事業所で行なう行事にも地域の方々の酸化を呼びかけ参加して頂いている。定期的に発行している「むつみ新聞」も配布。情報を提供し理解を頂けるようになってきている。	
			(外部評価) ホームは自治会に入り、掃除等地域の一員としての役割を担っている。地域の行事(盆踊り、運動会、敬老会等)に参加したり、4つのボランティアグループに来てもらっている。また利用者が縫った雑巾を小・中学校に寄付している。園児との交流や散歩時に近所の人との会話もあり、地域との交流は深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 定期的に運営推進会議を開催。地域の方を含めた学習会を行ったりしている。グループホームの理解、認知症の方に対する理解や支援方法を学んで頂いている。今後も継続して行きたい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議では、事業所としての取り組みを報告。参加しているご家族、地域住民、行政の方からのご意見を伺いサービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 自治会長、民生委員、地域包括支援センターの職員、家族の参加がある。内容としてはホームの状況や活動報告を行ったり、参加者による活発な意見交換が行われている。地域の方の要望で認知症についての学習会も行っている。また運営推進会議を兼ねて家族や行政、地域の方の参加を得て、避難・通報訓練を実施している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 管理者の対応であるが、市担当者とは必要に応じて連絡を取り、情報の共有が図れるようにしている。	
			(外部評価) 運営推進会議が休日開催の時にも参加してもらっている。グループホームの待機状況等連絡する等、普段から連携が取れている。また2か月に1回介護相談員の受け入れも行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフは身体拘束の内容については理解できている。今後も定期的学習を行い充実できるようにしたい。	
			(外部評価) ホームとして身体拘束はしない方針であり、管理者及び職員は勉強会を行い理解を深め、取り組んでいる。利用者の帰宅願望が強く外出する気配がみられたら、職員が後ろから見守りながら付いて行くようにしている。玄関の鍵は昼間は施錠していない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ間の情報の共有を図り、身体拘束は勿論、言葉による虐待にも充分注意して行きたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修に参加する機会が不足している。十分な理解ができていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者より入居時に契約に関する説明を行っている。また、支援・ケアに対する事業所の考え方を十分に説明、ご家族の不安の軽減を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入所者、ご家族のご意見に耳を傾けるように努めている。介護相談員の方も訪問してくれるようになり、ご意見を頂ける様になった。ご家族の方との定期的話し合いを継続し運営に反映できるよう心掛けたい。  (外部評価) 利用者及び家族に対して、入居時に要望や意見を遠慮せずと言って欲しいと説明している。運営推進会議や家族の面会時にも聞くよう心がけている。運営推進会議の案内は全員の家族に送っているが、参加者はあまり多くない。今年9月の敬老会は、県外在住の家族を含めて利用者のほぼ全員の家族が参加し盛大に開催された。	敬老会等で多くの家族が参加してもらえる時は家族と接するよい機会であり、その機会を活用して多くの家族の要望や意見を聞く等、一層の取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 新しい体制が整い、スタッフから出た意見を運営に繁栄することができるようになったと思う。年度始めには事業計画として提出、運営に反映して頂いている。</p> <p>(外部評価) 管理者は会議等でも意見を聞いているが、普段でも職員は管理者に対して意見や要望を言える関係ができています。また、法人が職員の意見を吸い上げるためのアンケート調査を行い、法人の管理者も定期的にホームに来ていたため、職員は直接要望が言えるようになっており、その意見を運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 母体病院の事務長、看護部長が定期的に巡回して頂き、直接提言で来る環境になっている。管理者は定期的に行なわれている会議で意見を言っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) スタッフからの希望があれば積極的に研修参加はできる。研修で得た知識・情報の伝達が不十分でスタッフ間の共有ができていない。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム連絡協議会の主催する相互研修への参加などで他施設のスタッフとのネットワークが広がっている。来年度以降も継続して行きたい。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入所前の状況によって違っているが、日々のケアの中で傾聴、見守りながら関係作りに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始において、フェイスシートなどに記入、聴き取りの中から利用者、家族の不安や要望を理解するようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族、本人様の話し合いにより希望・情報を得ながら日常生活全般において支援できるように努力している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家族の気持ちになって個々の状況に合わせた関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族への連絡を密にし、ご家族といっしょに、ご本人を支えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 特に面会制限もなく、馴染みの関係者が訪れても、よい雰囲気では会えていると思う。心地よく感じて頂ける様心掛けている。  (外部評価) 家族と協力して外泊や馴染みの場所に行く等の支援を行っている。また親戚や知り合いの方、地域の方の面会もある。長くホームで過ごされている利用者にとってはホームは我が家であり、その中で新たな馴染みの関係ができてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入所者同士の馴染みの関係ができ、助け合う様子が見られる。個々の関係把握を十分に図り、トラブル時には早急な対応と心掛け、お互いが穏やかに過ごせるように配慮したい。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所時には、情報の提供を行ったり、ご家族の相談に対しては随時受けている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプランの見直しの際に、本人やご家族の意向を、お聴きし、日々の関わりの中でも把握に努めている。まだまだ不十分と感じている。 (外部評価) 思いを自分で言える人もいるが、日常の会話から把握する事も多い。本人の得意なことを把握して支援している。また利用者一人ひとりに対して職員を受け持ち制にして、把握したことを全員で共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時フェイスシートを基に、お聴きし情報を得ているが、充分でないので日々の生活支援の中で、ご本人との会話の中から把握するようにしている。また、面会時にご家族から聴き取りを行なっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送りなどで話し合う機会を持ち、一日の過ごし方や心身の状態を把握し、ケア・支援に活かせるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人から希望を聴く事は難しいが、ケアプランの見直しの際に、ご家族の希望や意見を聴き、取り入れるようにしている。本人主体の介護・支援計画が作成できるように努めている。	
			(外部評価) 定期的に会議を開き、本人、家族、担当の職員の意見も採り入れて、本人に合った介護計画を作成している。介護計画に沿って週1回モニタリングを行い、分かり易く記録している。計画は6か月ごとに見直しているが、利用者の状況が変わればその都度話し合い、新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活の様子や会話の記録を個別記録に記入、毎日、週間予定にも具体的に記入し職員間の共有ができるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご家族との話し合いを充分に行い、ご本人やご家族の状況、ニーズに対応できるよう柔軟な支援やサービスの提供ができるよう心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの訪問もあり、自治会の敬老会、盆踊り、住民運動会等に参加。いろいろな方と触れ合う機会を持っている。安全で豊かな暮らしを楽しむことができていると思う。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 定期的に母体病院の担当医の診察を受けている。個々 のかかりつけ医の受診も継続的に行い、その他につい ても必要に応じてご家族と相談実施している。</p> <p>(外部評価) 入居時に母体病院や協力医療機関に変更する場合もあ るが、入居前のかかりつけ医との連携も支援してい る。受診の付き添いは基本的には家族にお願いしてい るが、緊急時はホームで対応している。医療との連携 が24時間365日可能で、定期的に訪問診療もあり 利用者は安心して過ごすことができている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 職場内の看護師と相談、状況に応じ担当医に相談、対 応している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) ご本人の身体状況に応じて、ご家族や主治医と相談、 入退院の支援を行っている。できる限り継続的関わり ができるよう、情報の提供を、お互いに行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入所時、また状態の変化に応じて、その都度ご家族に 対して事業所としての考えを説明しているが、ご家族 の思いとの差を感じている。</p> <p>(外部評価) 利用者が重度化した場合における対応に係る指針(看取 りに関する指針)を定め、医療機関との連携を図って おり、入居時に利用者及び家族に説明し同意を得てい る。ホームとして終末期に近い状態の利用者の介護も 経験している。</p>	<p>重度化した場合や終末期は医療機関で対応するという ホームの方針でも、利用者の状態は変化する事があ り、看取りを含めた職員の研修は継続して行うことを 望みたい。</p>



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修は受けているが、実践力に欠けている。今後も定期的な研修を継続して力をつけたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的な避難訓練、研修を実施。地域住民との連携強化を図り非常災害時に対応できるようにしたい。現在、設備の充実を図っている。  (外部評価) 年2回夜間も想定して避難訓練を実施している。地域との交流が深く、訓練に地域や行政の方の協力が得られている。また訓練と同時に応急処置やAEDの講習も行われており、スプリンクラーも設置予定である。地域の消防団の方が見学に来られてアドバイス等ももらっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入所者様の人格の尊重は、スタッフ一人一人が常に心掛けて支援している。  (外部評価) 居室は利用者のプライベートな場所なので必ず声かけを行ってから入るようにしている。利用者のペースを大切にし、自由に過ごしてもらっている。利用者への言葉遣いも気をつけて、一人ひとり尊重し、穏やかな声かけを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話の中で希望を聴き取れるようにしている。ご本人が選ぶ事のできる場面を作っている。自己決定できない方はスタッフがその思いを感じ取れるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1人一人のペースを大切にしている。時に業務を優先してしまうことがある	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族と話し合い、その人の状況に応じた身だしなみ・おしゃれができるように取り組んでいる。本人同伴の買い物外出。訪問販売の活用など。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 雰囲気作りに配慮している。(音楽をかけたり会話をしながら季節を感じて頂く) 手伝いのできる方は、負担にならない様配慮しながら行なって頂く。  (外部評価) ユニット毎に献立を考え、買い物も一緒に行っている。できる方は食事の準備や後片付け等職員と一緒にしている。病気がある人に対しては、検査の結果を見ながらメニュー等の対応をしている。食事の時間はユニットによって違いはあるが、職員と共に会話を楽しみながら食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量は、入所者個々によって差が見られる。個々の嗜好に合う物を提供しながら十分な栄養摂取、水分摂取ができるようにこまめなチェックをしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 訪問歯科を導入している。指導を受けながら口腔内の清潔の保持が図れるよう支援したい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の力量、状況に合わせて紙パンツ、パットを使用している。適時トイレ誘導し可能な限りトイレでの排泄支援をしたい。	
			(外部評価) 紙パンツを利用している人が多いが、トイレは自分でいける人が多い。ユニットによっては部屋にトイレがあり自由に行けるようになっている。利用者が利用した後の確認は必ず行うようにしている。夜間の場合は利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握し、定期的な見守りや、介助により個別に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然排便を心掛けている。困難な方には緩下剤を服用して頂くなどの対応をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日、入浴ができる状況にしている。一人一人の意向を大切にしている。入浴を嫌がる入所者様には声掛の工夫をして入浴を楽しめるように支援している。	
			(外部評価) 入浴の時間は午後からであるが、利用者の希望に合わせた支援を行っている。希望すれば毎日入る事ができるようになっている。入浴が苦手な人には無理強いをすることなく、言葉かけ等工夫して清拭を行い着替え等も支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 状況に応じて声掛を行い、休息を取って頂いたり、夜間は個々に任せているが覚醒時には声掛け見守りを行い、十分な休息が取れるよう支援している。その人のペースに合わせた支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬時にはスタッフ同士が確認を行い、誤薬することのないよう、特に注意している。医療関係者との連携を密にし情報の共有に努め、症状の変化に対応できるよう心掛けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご本人のできる事や興味を持てることを理解し場面に応じた支援をしている。食事作りの手伝い、手芸など本人の負担にならないように取り組んでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物や散歩などご本人の希望に応じて支援できるようにし気分転換を図っている。家族の協力を頂きながらではあるが少しずつ取り組んでいる。	
			(外部評価) ユニットはそれぞれ独立した建物であり、ユニット毎に生活リズムが違う。食材の買い物や散歩、外食等は利用者に合わせて出かけている。地域の行事などは一緒に出かけたり、合同の行事等もありユニット間の交流も積極的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的にお金の管理は事務所で管理している。入所者の買い物などについては必要に応じ、ご家族の了解を得て行なっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人の意向に添って可能な限り行なって頂いている。家族からの電話にも出て頂き会話をさせて頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節折々の花を飾ったり心の落ち着く空間作りに努めている。入所者の方が過ごしやすい環境作りを心掛けている。	
			(外部評価) 居間はユニット毎に違っており、テレビ、ソファ等利用者が居心地よく過ごせるようそれぞれ工夫して配置している。トイレ等気になる臭いはなく、玄関や居間の壁の飾り等も季節が感じられるよう配慮されており、家庭的な雰囲気作りがされている。利用者は自分のペースで自由にお気に入りの場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 各自が落ち着く空間があり、それぞれが自分たちのペースで生活している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) それぞれの部屋は、使い慣れた物を使用し、ご本人ご家族の想いの空間を作って頂いている。	
			(外部評価) 利用者の希望で家庭より馴染みの物が持ち込まれている。壁には好みに合った飾り付けがされ、個性的な部屋となっている。居室はプライベートな場所であるので掃除等は自分でしてもらっているが、職員と一緒にする事もある。部屋はきちんと整理されており清潔感もあり、居心地のよい場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) もともと軽度の認知症高齢者を受け入れを考えて作られている。現在入所されている方の高齢化により身体機能の低下が見られる。ハード面の不備があるので安全に対する注意が必要になっている。	